

戯言「徒然草」

その1：裁判官の国民審査

知り合いの老人が呟いていた。

「衆議院選挙があると、同時に行われる最高裁判所の裁判官の国民審査。なんだかさっぱりわからない。」

「わからないから白紙で出したら、それじゃ全員承認したことになると友達に言われたので

全部 ×印にしておこうかしら」

真剣に調べて真剣に投票している人もいるだろうが、おおかたの有権者は、わからないから適当に投票しているに違いない。

最高裁判所で行われている裁判について、その一部始終がくまなく新聞やテレビ・ラジオその他の媒体を通じて公表されていて、殆どの方がそれを承知しているだろうか。

どの裁判は、どの裁判官が担当して、どんなやりとりの末、どんな結末になったのか。一般国民一人一人がそれを知る仕組みになっているのだろうか。

例えば「最高裁判所ニュース」という新聞が定期的に発刊されていて、一つ一つの裁判や一人一人の裁判官の行動が広く知らされているのならまだしも、選挙になると出し抜けに10名を越える裁判官の名前を書いた紙を見せられて、「気にいらなければ ×を付けなさい」と言われても困るのが普通だろう。学校で学問として習ったときには、「三権分立ね」「ウムウム」、「国民審査ね」「ウムウム」。

民主主義の象徴として美しい響きを感じて暗記的に覚えたものだが……。

いざ大人になって、現実に直面してみて感じた。「名ばかりのもの」で「国民の手にはない」ものだ。

その2：シニヤってなんだ

近頃、意味もはっきりしない「カタカナ語」や「外来語もどき」が横行している。

時には、横文字風の言葉でありながら「外国人には通じない言葉」もあるようだから、困ったものだ。

いつの頃からだろうか、定年退職ぐらいの年齢になった人を「シニヤ」と呼ぶようになった。

様々な場所で「シニヤ料金」という設定があったが、60才以上だったり65才以上だったり70才以上だったりして、「年齢の定義」が統一されてはいなかった。

おまけにここに「シルバー」なる言葉が混ざってきて、訳がわからない状態になってきた。

大阪のおっちゃんに聞いてみたらわかりやすい答えが返ってきた。

「シニヤってどういう意味だと思います？」

「世の中の迷惑になるようなことばかり言っている奴のことやろ」

「えっ？」

「はよ死にや っってことや」

折から衆議院選挙の真っ最中、横を選挙カーの連呼が走って行った。

その3：叙勲のはなし

今年の秋の叙勲が発表された。約4,000人の方々が受章した。

毎年春と秋に約4,000人ずつが受章し、この他に春秋の叙勲の選に漏れた功労者の中から選ばれた満88才になった人に授与する「高齢者受章」というものも用意されているらしい。

また春秋には、叙勲のほかに約700人の褒章授与もある。

新聞等で名前が紹介されるので毎回見ているが、就いたポストによって序列があるが、かなりの人が一定の年齢になると授与されるようだ。

サラリーマン時代に、取引先の偉い方が授与されると祝いに参じたりしたことから毎回新聞をさっと眺めて確認することが習慣になってしまった。見ていると余計なことも見えてきてしまうから面白い。

不祥事を重ねた国会議員や元政治家の名前が載っていることがあったり、日本にいない外国人の名が載っていたり、この人がもらうのにあの人はもらえないの？という疑問が生じたり。

COVID-19 という異常な事態が発生して、国内ばかりか地球規模で混乱が生じている中で、

「このような状況下で、このようなものをいただいて喜んではいられない」と辞退する人や

「この費用をコロナ対策に回して戴きたい」と辞退される方の話を聞いたことがない。

さらに、「非常事態のさなかなので、今年度は叙勲・褒賞授与は中止にいます」というような話を聞いたことがない。一人ぐらいそういう骨のある人はいないのだろうか。

大谷翔平くんが国民栄誉賞を辞退したと聞いて安心した。

その4：自民党と立憲民主党

コロナ騒動のさなかに、9月に一ヶ月の政治空白を作って行われた「自民党総裁選挙」

これを批判した立憲民主党が、11月にまったく同じことをやっている。

自民党と全く同じ方法で選挙を行い、マスコミを巻き込んでなのか、マスコミが騒ぎ立てるからなのかわからないが、この政党とは何のゆかりもない人々にまで演説を聴かせて、しかも政権をとった訳でもないのに、国家レベルの課題の議論をして見せたりで、支離滅裂。

一政党の統領選に過ぎないのに、何をやっているのか？

「うけ狙い」と「数合わせ」ばかりやっていないで、もっと「静かに」もっと「素早く」やれと言いたい。

これをもって「自滅の刃（やいば）」とでも言うのだろうか？

一般社会を眺めてみても、会社の社長選りやマンションの自治会長選りなどで、町へ出て演説会なんかやらない。

「永田町の常識は、一般社会の非常識」と強く感じた、この三ヶ月。

以上